自由と進歩
法政大学

2017

社会学部

HOSEI UNIVERSITY
FACULTY OF SOCIAL SCIENCES
GUIDEBOOK 2017

社会課題を解決しよう。

DEPARTMENT of POLICY SCIENCE on SOCIETY
DEPARTMENT of SOCIOLOGY
DEPARTMENT of MEDIA and COMMUNICATION STUDIES

法政大学社会学部は、
環境、教育、まちづくり、福祉、流行、メディアなど
私達の周辺でおこるさまざまな重要な社会現象を洞察し、
そこにある課題を発見・分析し、
解決への道を探る力を身に付ける学びの場です。
理論面だけでなく豊富なゼミ、実習などを通じて、
課題解決に向けて実践的な知を習得することができます。そのために
日本でもトップクラスのさまざまなコース・プログラムが用意されています。

社会課題を解決しよう。

DEAN MESSAGE

創設から60余年。
私立大学初の社会学部として、
より良い社会づくりをめざして邁進します。

法政大学社会学部は1952年、私立大学初の社会学部として誕生しました。以後60余年にわたって、本学部はそれぞれの時代の社会と向き合いながら、さまざまな社会問題が生まれる構造を解き明かし、課題解決によるより良い社会づくりをめざしてきました。

社会学部が取り組む課題の背景となる社会の構図は、時代とともにますます複雑になってきています。なぜ貧富の格差が生まれるのか、なぜ都市に人口が集中して地方は過疎化するのか、なぜ晩婚化・非婚化が進むのか、なぜSNSでは炎上現象が起こるのか。本学部では、こうしたさまざまな課題を取り上げ、問題の構造を解き明かし、解決していきます。

本学部は創設以来、変わり続ける社会に合わせて、学びの内容やカリキュラムを進化させてきました。現代社会の課題解決に応えられる実績を持つ教員が揃っています。歴史と伝統の中で積み重ねてきた研究成果を生かしながら、さらなる発展をめざしていきます。

学部長　徳安 彰

ゼミを通して課題を発見し、解決する

少人数の学生が集まり、教員の指導の下に自ら研究し、発表・討論を行います。
社会学部には多種多様なゼミがあり、興味をひかれるテーマに必ず出会えます。
全てのゼミが教員との距離が近く、相談しやすいアットホームな環境で、学生と教員が
共に学んで行きます。問題意識を持ち、自ら社会に問いかけることにより、自主性を養います。

疑問　どうすれば社会は良くなるのか

討論　少人数制の双方向コミュニケーション

教員や他のゼミ生と
対等に討論します
▼
専門的なテーマを
深く追求していきます

課題　社会における課題の発見

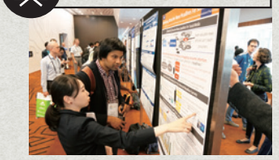
▼

どうすれば課題を解決出来るのか

フィールドワーク

ディスカッション

研究・発表



より良い社会をつくる

社会政策科学科ゼミ

ゼミを通して社会課題に取り組む

DEPARTMENT of POLICY SCIENCE on SOCIETY SEMINAR

糸久ゼミ

糸久正人 准教授

イノベーション論
技術社会論

価値ある技術を仕組みづくりで社会に普及させる真のイノベーション

社会的視点から イノベーションの本質に迫る

本ゼミのキーワードはイノベーション（innovation）です。日本では永らく、イノベーションは技術革新と捉えられてきました。しかし近年、技術革新を起こせばイノベーションにつながるかといえば、必ずしもそうではありません。そもそも、イノベーションとは、オーストリア出身の経済学者・シュンペータ（1883-1950）によって定義された言葉で「新しい価値の普及による変革」を意味しているからです。

二足歩行のロボット、人工知能（AI）、自動運転、ドローンなど、社会に変革をもたらすためには、新たな価値を実現するための「仕組み」である政策やビジネスモデルが重要になります。技術は、そこからどのような価値を生み出し、何を所与とし、それをどのようにして社会に普及させるのか。どのようなビジネス・エコシステム（ビジネスの生態系）を構築し、持続可能な競争優位を実現させるのか。社会や企業を取り巻く、イノベーションという事象に迫るのが、本ゼミのメインテーマとなります。

日本には、イノベーションのシーズ（種：潜在的な価値ある技術）がたくさんあります。しかし、その多くは社会に普及する前に企業や大学の中に埋もれてしまっていることが多いのも事実です。イノベーションの種が芽吹き、やがて大きな木へと育つためには、社会的な視点から、技術とイノベーションのマネジメント（TIM：Technology & Innovation Management）を考える必要があるのです。

ゼミでの学び方は、まず、イノベーション・マネジメントに関する文献を取り上げ、各章ごとに報告者を決めてディスカッションするという形式を基本としています。その中で、議論の基礎となるロジックやプレゼンテーションの方法も同時に学びます。応用編のサブゼミ活動として、イノベーションを実現するためのビジネスモデルの構築などに、チームで取り組みます。厳しい課題にチャレンジするときは、ゼミ生同士ぶつかることもありますが、プライベートでは和気あいあいとしています。

「合理性の枠」を広げる経験が成長を促す

本ゼミでは、テーマ自体は学生が成長するための「手段」に他なりません。TIMの学習を通じて、「合理性の枠を広げる経験」をしてもらうことに、ゼミ教育の主眼を置いています。その場では「なんで今こんなことをしなくちゃいけないの？」と思うようなことでも、後になって振り返ってみると、「あのとき努力してよかった」と思う経験はあるでしょう。ノーベル経済学賞を受賞したサイモン（1916-2001）は名著『Administrative Behavior（1947）』の中で次のように書いています。「人間の認識能力には限界があるために、合理的であろうとしても、所詮は『限定された合理性』しか持ちえないこと」と指摘しました。学生の大きな成長を促すのは、その場の限定された合理性の枠を超えた、事後的合理性を有する経験を多く積むことなのです。以上のことから本ゼミでは2つの理念を重視しています。

第一に自分の限界を適度に超えた「ストレッチ目標」にチャレンジすることです。今の実力のままだと失敗してしまうような、合理性の枠の外にある目標です。2015年度は「イノベーションの実践」と称し、大企業の未使用特許を活用したビジネスモデルを構築し、中小企業にライセンスアウトするという活動を1年間、チームで実施してもらいました。革新性および実現に優れたビジネスモデルを構築することは一筋縄ではいきません。実務に携わる人々から多くのフィードバックを受け、アイデアを繰り返しブラッシュアップしていきます。チームワークを維持しながら全員で協力していきますが、本当の困難にぶつかったとき、思い通りにいかないモドカシサに涙する学生もいるほどです。しかし、こうした経験を乗り越えたときにこそ、学生たちの合理性の枠は拡がり、見違えるほど成長します。

第二に「目的が明確でない活動（遊び）」も大切だということです。学生にとって合理的な行動とは、授業を受けて、効率的に単位を取ることです。しかし、時には授業を休んでも自分の興味・直感に従い、目的が明確でない活動に従事することはとても大切だと考えています。実際に、何人かのゼミ生は、企業への週2回1年間の長期インターンシップや、丸一日使っての工場見学などのほか、学会の実行委員としての活動や企業の人たちも巻き込んだ勉強会の立ち上げなどを実施しています。その結果、論理力を鍛えるための勉強会のはずが、大人とのコミュニケーションの方法や人脈、コミュニティの運営方法の学びなど、意図せざる成果として学生の成長を促しています。

合理性の枠を広げるという意味で、成長の機会となりうるチャンスはたくさん溢れています。頭デッカチにならずにフットワーク軽く遊ぶことも重要なのです。

自分の中にある「原石」の磨き方をゼミで学ぶ

教員自身も研究活動の場において、最前線で活躍する努力を惜しまぬことが重要だと考えています。特に目まぐるしく変化する社会において、TIMは複雑化の様相を呈しています。デジタル革命やグローバル化の進展など、今までの常識が覆されるような環境変化も多々見受けられます。常に現場と理論の往復運動をしていること、また、そうした姿を学生に見せることが、質の高い教育につながると考えています。

本学社会学部の場合、専門ゼミは2年生から4年生までであります。ある程度システマティックにゼミ運営しなければならないのも事実ですが、可能な限り、学生一人一人に向き合うことを重要視しています。

学生は、磨けば光る原石です。しかし、その磨き方は人によって異なるでしょう。どうすれば、その学生がもっと成長できるのかを考え、学生の成長が実感できた時は、教員として何よりの喜びです。多くの学生にとって、ゼミは社会人になる直前の3年間。一人一人とのご縁を大切にするというスタンスで、学生との時間を共有したいと思っています。

PROFESSOR'S MESSAGE

高い技術力が報われる仕組みづくりによるイノベーションでより良い社会を

—

糸久正人 准教授

本ゼミのメインテーマは「社会における技術とイノベーションのマネジメント」です。これまで技術革新と訳されてきたイノベーションは、本来「新しい価値の普及による変革」を意味します。ところが、技術革新＝イノベーションとはならない背景には、新たな価値を実現するために必要な「仕組み」である政策やビジネスモデルが欠けているため、社会に変革をもたらすまでには至らない現実があるのです。本ゼミでは、「社会や企業を取り巻くイノベーションの本質とは何なのか」という課題に真っ向から取り組みます。イノベーション・マネジメントに関する文献を取り上げ、ディスカッションを行いながら、基礎知識のみならず議論の基礎となるロジックやプレゼンテーションを学び、イノベーションを実現するためのビジネスモデルの構築にチームで取り組んでいきます。また、日本企業にはイノベーションの種をうまく育てられない傾向が少なからず見受けられますが、技術力の向上に払う努力がビジネスでも報われ、より豊かな社会の実現に繋がるために、技術とイノベーションのマネジメント（TIM；Technology & Innovation Management）を社会学的見地から考察を重ねます。多彩な科目を通して多様な社会問題を学際的かつ多角的に分析し、解決するための政策立案・評価能力を学べる本学科では、グローバル化に向けて変化の著しい現代において、より良い社会を政策的な観点から実現する、チャレンジ精神あふれる学生を求めます。

「心は熱く頭は冷静に」良い技術が生かされていない社会問題に取り組む

—

3年　岩切のり子さん

私は良い技術を企業や社会が生かし、新しい価値を提供するために克服すべき課題やマネジメントについて学んでいます。研究テーマは「技術とイノベーションのマネジメント」ですが、その実践として地場金融機関の支援を受けつつ、大企業の未使用特許を使って、中小企業にライセンスアウトするためのビジネスモデルを考える「知的財産活用アイデア全国大会」にも参加し、イノベーションの難しさも学んでいます。ゼミに入って、尊敬できる先生と仲間に出会って切磋琢磨しながら学び合い、本気でチャレンジすることで修羅場も経験できて、人生において貴重な時間を過ごしていると実感できています。将来も熱意を持って働ける場で「心は熱く頭は冷静に」仕事をしていたいと思います。

主な卒業論文

- 不確実性下におけるオープンイノベーション活動
- 人間とロボット社会の問題点
- 顧客ニーズの獲得と実現
- ドヤ街から福祉のまちへ
- シニア層における顧客リレーションシップ戦略

社会学科ゼミ

ゼミを通して社会課題に取り組む

DEPARTMENT of SOCIOLOGY SEMINAR

FSS File, 2015

堀川ゼミ

堀川三郎 教授

環境社会学
都市社会学
まちづくり論

現場を歩き、人々との鮮烈な出会いの中で考え、社会に繋がる学びを実践する

資格より、問題を見抜く「視角」を

資格を取るよりも、社会問題を見抜く「視角」を養い、その問題を考えるための「方法」を学ぶ場所――それが堀川ゼミだ。

もちろん資格を否定しているわけではない。しかし、堀川ゼミでは社会問題をどのようにとらえるかという「視角」を涵養することに重きを置いている。なぜなら、どんなに頭が良くても、「問題」を感じ取れずに日々をスルーしてしまうだけでは、頭の良さも宝の持ち腐れになってしまうからだ。社会問題は、そこに「問題です」といって座っているわけではなく、「何かおかしいぞ」と感じ取る力によって見い出されるもの。問題を見抜くことのできる「視角」を涵養する必要があるというわけだ。

だから堀川ゼミでは、現場を歩く「フィールドワーク」と、本をたくさん読んで議論する「講読」の両方を行なっている。フィールドワークでは、徹底的に現場を歩くが、それは現場にこそ問題を見つけるヒントがあるからだ。テレビや新聞で報道されていることは本当か、未だ報道されていない問題はないのかと、常に問いかけることができるようになるためには、現場に身を曝し、自らの視角を鍛えねばならない。指導する堀川教授は、32年間もの間、あるコミュニティの盛衰を調査してきた筋金入りのフィールドワーカーだ。経験に裏打ちされた彼のアドバイスは、ゼミ生には実に心強い味方である。とはいえ、ただ歩き回ればそれで良いというものではない。ゼミでは、先人の思索が蓄積されている書物を重視し、それを読み解いていく。現場と書物を常に行き来しながら活動しているのが、堀川ゼミの大きな特徴なのである。

問題解決の「方法」を学ぶ

問題を見抜く力がフィールドワークによって養われてきたら、つぎに必要となるのは、問題を考える「方法」だ。いくら視角が冴えていても、正しく考えられなければ、空回りしてしまう。

「1＋1＝?」のように、答えがひとつに決まっている問いというのは、世の中にある膨大な問いの中のほんの一部だ。答えも答え方も決まっているので、覚えてしまえばOKだ。しかし、大部分の問いは、解き方も答えも一つではないし、そもそも答えられるかもわからない。ゼミ生がフィールドワークの中で得ることになる問いは、こうした難しいものばかり。だから「答えを知っていること」よりも「解らないことを解るようにする方法」を知っていることの方が意味がある。

ひとつの比喩で考えてみよう。試験範囲の英文を暗記しただけの人は、範囲外の英文を自力で読み解くことはできない。なぜなら、範囲内の「正解」を知っているだけで、読む「方法」を知らないからだ。もし、習った英文法の活用法と辞書の使い方を知っていれば、自力で未知の英文を読み解いていくことができる。このように考えれば、先行きの見えない現代社会で、暗記した答えだけで渡っていこうというのが、いかに無謀なことか理解できるだろう。社会問題や人生について正しく問い、正しく答える「方法」なしには、生きていけない。答えが正しいのではなく、答え方が正しいという点が重要だ。難問に正しく向き合える方法を身に付けることができれば、自力で生き抜いて行けるに違いない。堀川ゼミでは、自ら難問に取り組み、それに解答しようと頑張るその過程で、方法を体得していく。古今東西の書物は知識というより方法の宝庫だから、ゼミでも徹底して読み解いていくことになる。堀川教授も「卒業しても古びないもの、それは『知識』ではなく『方法』です」と力を込める。

徹底したフィールドワーク

現場を歩くフィールドワークは、「社会調査実習」という授業で行われる。何らかの問題を抱えた地域社会を選び、一週間の合宿を組んで徹底的に現場を調べて論文をまとめる。朝から晩まで歩き回り、町を皮膚感覚で理解していく。体を張って地域問題に取り組む人々へのインタビューは、徹夜になることだってある。こうした鮮烈な地域人との出会いはゼミ生の内面を耕し、豊かなものへと鍛え上げてくれる。論文集がまとまる頃には、学生の顔つきが、社会問題と知的に格闘した結果、自信を持って発言する頼もしいものへと変わっていると堀川教授は言う。確かに厳しい科目ではあるが、だからこその充実感がある。5時間にもわたるインタビューを終えて宿に帰ろうとするその刹那の笑顔は、やり切った者にのみ許される黄金の笑顔だ。実習をきっかけに大学院に進学して学会賞を受賞した者が2名いる。

Photo: Sakura Horikawa, 2015

社会と繋がっている学び

堀川ゼミが長年にわたって取り組んでいる社会問題に、衰退した都市の再開発問題がある。日本では、今あるものを壊してまったく新しく建て替えてしまうという「スクラップ＆ビルド」方式が行われてきた。その結果、昔ながらの町並みは消滅し、どこにでもあるような風景が拡がっている。町並み保存運動は、そんな再開発政策に「ノー！」という運動だ。何を保存するのか？ 開発できなくてよいのか？ 町は再活性化できるのか？ 堀川ゼミはこうした難問を地道に調査研究してきた。

特効薬があるわけではないし、住民も行政も学生の提言を素直に聞いてくれるわけでもない。しかし、住民運動と行政に対立が起こるのはなぜか？ どこでボタンの掛け違いが起きたのか？――堀川ゼミの調査は、こうした大切な基礎部分を明らかにしてきた。その結果、今ではかつての住民運動の参加者と、市職員の双方が、堀川ゼミに問い合わせをしてくるまでになったという。「○○の資料はありますか?」「△△という政策についてご意見をうかがいたい」と。住民と行政の双方から頼りにされているという事実は、堀川ゼミの社会的貢献を示す好例だ。堀川ゼミは行政批判ばかりしているわけでも、そのお先棒を担いでいるわけでもない。地域社会の全体を視野に入れ、ゼミとして18年にわたって地道に調査を続けてきたデータの集積とその重みで勝負しようという姿勢が、地域社会に認められているからこその信頼関係なのだ。堀川ゼミでの学びは、社会とまっすぐに繋がっている。

FSS File, 2015

PROFESSOR'S MESSAGE

君よひとりで現場を歩け 現場と書物の往還から、社会問題に挑む

―

堀川三郎 教授

堀川ゼミの在り方を一言で表現するなら「データをもって語ろう」です。英語で言えば“Say it with data.”となります。机上の空論ではなく、自らの足で現場を歩き、そのデータをもって社会問題を語ることです。堀川ゼミはずっと、そうしてきました。ゼミ生には、常に現場に立って、現場から考えることを基本として求め続けてきたといえるでしょう。本ゼミが長年にわたって取り組んできた社会問題は、衰退した都市の再開発です。具体的には、まちづくり、都市問題、景観保存問題、公害・環境問題をテーマとし、住民が自らの社会づくりに参画できるような道筋をつけ、公害・環境問題では、その被害が矮小化して被害者が泣き寝入りしなくて済むよう、これらの課題解決のための調査・研究をしています。「現場を歩き、足で考える」をゼミの基本理念にしているのは、他人の意見の受け売りやテレビで見聞きしたことをなぞるだけでなく、自らの足と頭、眼を使って考えに考え抜き、自分の言葉を紡ぎだすことこそ、堀川ゼミの目指していることだからです。「厳しいから大変」ではなく「厳しいから楽しい」と思える学生を歓迎しています。それは、「よく学び、よく遊べ」を体現できるメリハリを持った学生です。自分の未来に向かって、厳しく鍛えることを厭わず、その先にとびっきりの楽しさが待っていると信じ、頑張る人にこそ、是非、本学社会学科に来て学んで欲しいと願っています。

FSS File, 2015

ゼミで最初に精読した『社会学に何ができるのか』から得た考え抜く姿勢

―

2年　真鍋佳那子さん

このゼミでは「社会学」という道具を使って、考える方法を訓練できます。当たり前と思っていたことを「本当にそうなのか」と積極的に問いかけることで視野が広がるのです。私は鎌倉市の歴史的風土保全に関する住民運動について研究していますが、景観保全の集会に参加した際、年配の方々が多く、若い世代がいないという状況に危機感が生じました。将来の世代に景観を残そうと動いているにも関わらず当事者である若者の無関心は問題です。ゼミに入ってからは、自分から学びに行く大切さを知って驚くほどに達成感があります。私たちのゼミでこだわっているバーベキューも楽しく、充実しています。将来にわたってゼミで得た、モノを考え抜く姿勢を生かしていきたいと思います。

〔 主な卒業論文 〕

- まちづくりにおける官民パートナーシップ
- 「伝統の創造」概念の再検討
- ネットワーキング2.0
- 「博物館化」された都市
- なぜ電車内にBGM は流れないのか

メディア社会学科ゼミ

ゼミを通して社会課題に取り組む

DEPARTMENT of MEDIA and COMMUNICATION STUDIES SEMINAR

藤代ゼミ

藤代裕之 准教授

ソーシャルメディア論
ジャーナリズム論

ソーシャルメディア時代の「伝える」を解明し、メディアとジャーナリズムの未来を切り拓く。

社会のすべてがメディアになる

LINE、Twitter、Facebook、YouTube、ニコニコ動画、ツイキャス……これらソーシャルメディアの登場により、メディアは15世紀以来の地殻変動に見舞われている。その最前線で実践と研究を行うのが藤代ゼミだ。

ソーシャルメディアは、友人や家族との日常的なコミュニケーションだけでなく、ニュースを受け取り、目の前で事件や事故が起きれば発信にも使われる。記者はTwitterで取材を行い、テレビ番組はYouTubeの動画を紹介する。いまの高校生や大学生にとって当たり前の光景は、10年前には存在しなかった。

グーテンベルクが印刷機を発明して以降、情報発信の主体は新聞やテレビなどマスメディアが担うようになり、人々にとって情報は受け取るものだった。だが、ソーシャルメディアにより誰もが発信できるようになり、個人だけでなく、企業、自治体、国も発信者となった。マスメディアによる一方向の伝達から、ソーシャルメディアによる双方向なコミュニケーションへ。パラダイムの変化は社会全体を飲み込み、あらゆる組織、モノがメディア化していくメディア社会が到来している。

その変化は、従来の社会の仕組みや人々の倫理との間に摩擦を起こすようになっている。プライバシーが暴かれる炎上や芸能人によるステマ（ステルスマーケティング）はその一例だ。中東に出現したイスラム国（IS）はソーシャルメディアを効果的に活用し、ヨーロッパなど西欧世界に支持者を広げている。一方、パリで起きたテロに対抗し、FacebookやAmazonはグローバル企業にもかかわらずフランス国旗を掲げた。このように、ソーシャルメディアはマスメディアと個人だけでなく、国家や企業の枠組みすら溶かしている。ソーシャルメディアを研究することは、社会の課題に向き合うことでもあるのだ。

技術への理解は不可欠

ソーシャルメディアの研究と実践を行うためには、メディアの知識だけでなく、プログラミングなど技術への理解も必要となる。

担当する藤代裕之准教授は、徳島新聞で記者として活躍し、NTTレゾナントでニュース編集やサービス開発・研究開発を担当した経験を持つ。紙とウェブ、両方のメディアを経験し、大学教員となっても現役のジャーナリストとしてソーシャルメディア時代の課題や可能性を発信し続けている。その経験と新聞社やテレビ局、広告代理店、通信企業などとの幅広いネットワークを活かし、NTTコミュニケーション科学基礎研究所や朝日新聞と、ソーシャルメディアにとって最適なニュース記事のタイトルについて共同研究を行っている。また、TBSメディア総合研究所と大学生のテレビ視聴とソーシャルメディア利用の実態について、千葉県野田市とはソーシャルメディアを使った広報の研究を行っている。

ソーシャルメディア時代の「伝え方」の解明は社会から求められているのだ。

社会に根ざした実践で鍛えられる

あらゆるメディアを使いこなし、メディアとジャーナリズムの未来を切り拓くことができる人材育成を目指している藤代ゼミにとって、ソーシャルメディアは単なる研究対象ではない。その特性を活かした、実践的なプロジェクトを数多く展開している。その一つが、島根県在住のローカルジャーナリストとして活動している田中輝美氏とともに取り組んだ「風の人プロジェクト」だ。

プロジェクトでは、都市と地方をまたいで活動し、地域に新たな視点を運んでいる「風の人」8人に取材を行ない、『地域ではたらく「風の人」という新しい選択』として2015年8月に出版された。取材費用はクラウドファンディングと呼ばれる新たな手法を用い、ソーシャルメディアで支援を呼びかけた。出版後はイベントを仕掛けて手売りし、一人一人に丁寧に届けたことで評判が広がり重版が決まった。

学生にも変化が現れる。地方出身の学生は「地元に帰っても、公務員か銀行員といった退屈な仕事しかない」と考え、都市出身の学生は「地方のことなんて考えたこともなかった」。だが、いつしかゼミ生は「やりたいことにチャレンジする場があるなら、場所は関係ない。地方か都会かではない」と、多くの人々が抱きがちな、都会と地方という二項対立の認識から脱却していった。

現実は「賛成」「反対」といった二項対立では割り切れない、複雑で思惑や利害が絡み合う多様性を孕んでいる。プロジェクトを行う中で、東京を中心に情報が流れる構造的な問題に気付き、解決策も考えるようになった。

ゼミ生は、時には担当したくないプロジェクトに当たる。だが、責任を持ち、結果を出すために全力を尽くすことで、成長し、個性を豊かに伸ばしている。あるゼミ生は、「クオリティ至上主義」「一生懸命取り組むことが面白い」とゼミの特徴について教えてくれた。

何のために発信するのか

高校までの勉強は与えられた課題とその正解を暗記する世界だが、大学は違う。誰かが正しい答えを持っていて、それを教えてくれるわけではない。間違っているかもしれないが、自分の頭で考え、試してみる作業が必要となる。

「ジャーナリズムは、世の中の出来事を記録するとともに、知られていない事実を浮かび上がらせ、伝えることが役割だ」と藤代准教授は言う。だが、単に「マスメディアで働きたいから」とゼミの門を叩く学生には「何のために」との問いが投げかけられる。マスメディアの時代は伝えることそのものが目的だったかもしれないが、現在では手段のひとつでしかない。誰もがジャーナリストだからこそ、何のために発信するかが重要だ。過疎地域を活性していくために、重要なニュースを広く伝えるために……社会の課題解決のためにメディアを学ぶ時代になっているためだ。

大学生は何者でもない。社会に関心を持つこと、人として誠実・公正であること、責任感を持つこと、知識や経験から学び、他者に敬意を払うこと。社会で何かを成し遂げるための力を、実践と研究を通して身につけるための「場」が、大学なのである。

PROFESSOR'S MESSAGE

「ナゼ」を追求し、正解がない世界へ挑む。ゼミは知的アドベンチャー

—

藤代裕之 准教授

ソーシャルメディアで誰もが発信できるようになった社会における情報の伝え方について、実践と研究を行っています。ソーシャルメディアは、社会の様々な側面に大きな影響を及ぼしています。社会のすべてがメディア化したことにより、個人や企業、国などが発信者となったことで、マスメディアが取り上げれば伝わる時代は終わろうとしています。

どのメディアをどう組み合わせれば効果的なのか、どのような技術が必要か、伝え方は混沌としています。まとめサイトやニュースアプリなど新たなメディアが次々と登場し、メディア業界は大きく変化しています。このような正解なきメディアの世界を解明するためには、実践と研究の両方からアプローチすることが不可欠です。ゼミは知的なアドベンチャーなのです。

冒険に出かけるためには、事前の調査や準備、仮説を立てる力、客観的な事実と自分の解釈を分ける判断力が必要です。それを支えるのが好奇心です。好奇心とは、誰かから与えられたプロジェクトや役割であっても、そこに面白さを見い出すことができる力です。生まれながらの才能ではなく、知識や経験から学び、他者に敬意を払い、自分と向き合い「ナゼ」を追求してくことで、生まれるものです。

単なるマスメディアへの憧れではなく、社会のためにメディアを活用し、何かを伝えたいという人にこそ、メディア社会学科で知的な基礎力を身に着けてもらいたいと思います。一緒に新しいメディア社会を切り拓いて行きましょう。

ファッション×ソーシャルメディアで日韓の新しいつながりをつくりたい

—

4年　沢津橋真子さん

PARCOのウェブマガジン「ACROSS」と共同でソーシャルメディアとストリートファッションの関連性について日韓比較研究をしています。 大学の制度で韓国に留学した当時、日韓関係は悪く、国やマスメディアはお互いを批判していましたが、友人たちはファッションや音楽などに関してソーシャルメディアで日本の情報を得ていました。ファッションとソーシャルメディアによって国を超えてつながれることに気付いたのです。 ファッションとソーシャルメディアを組み合わせれば、一人一人が持つ多様な考えを表現したり、明るい気分を社会に反映したり、できると考えています。 研究を進めることで、日本と韓国の新しいつながり方をつくっていきたいと思います。

主な卒業論文

- SNS上で拡散するwebニュース説明文の調査と自動選択
- ソーシャルメディアとテレビ番組連携の効果に関する研究
- インターネット上のニュースと人々の志向性に関する分析
- 地方テレビ局のドキュメンタリーの可能性

CURRICULUM

独創的なカリキュラム

学生それぞれの興味・関心にあわせ、主専攻・副専攻を選択し、
講義や実習などを組み合わせて履修することができます。
とてもユニークなカリキュラムです。

ゼミを重視する4年間

社会学部では、学生と教員が親しく交流しながら学習する演習（ゼミナール）を重視し、入学時から卒業時までの全期間にわたり少人数での学習機会を保証しています。さまざまな入門科目や基礎科目と連動しながら、1年次では、大学生としての広い視野の形成、研究方法の習得、問題意識の涵養を目的とした基礎演習で学び、2年次より特定の学問分野や問題領域を専門的に深く研究する演習1・2で学びます。4年次の演習3では集大成として卒業論文を作成します。

3学科 ➡ 7コース・8プログラムへと深化

15のコース・プログラムがあり、主専攻として7コースの中から1つ、
副専攻として主専攻以外の6コース・8プログラムから1～3つを選択できます。
主専攻は所属学科に対応したコースから選ぶことが必要ですが、
副専攻は自由に選ぶことができます（一部選択の仕方に制限があります）。

3つの学科

- 社会政策科学科
- 社会学科
- メディア社会学科

7つのコース

- 環境政策コース
- 企業と社会コース
- コミュニティ・デザインコース
- 人間・社会コース
- メディア社会コース
- メディア文化コース

国際社会コース（3学科共通）

学部共通8つのプログラム

政策リテラシープログラム

政策過程、政策評価、政策立案の理論的学習、政策情報の収集、政策事例の分析についての実習などを行い、総合的な政策分析能力を養成します。

公務員プログラム

将来、公務員をめざすために必要な能力を身に付けることを目的とします。自治体行政や行政法の講義及び外国文献講読による理論的学習、政策情報の収集やデータ分析、政策立案などの実習を行います。

社会学総合プログラム

理論系の講義、外国文献講読、原典講読などの体系的履修により、理論的理解を柱にしながら、社会学を幅広くかつ段階的に学びます。

社会調査プログラム

社会調査の理論を段階的に学ぶとともに、社会調査実習を通して、計量的あるいは質的データの収集と分析を行います。社会調査協会より認定された6科目14単位の修得により、社会調査士資格が取得できます。

情報デザインプログラム

情報分野における、基礎から高度な内容までの実習科目を段階的に履修します。情報関連資格の取得準備が可能で、教職課程と併せて履修すると、情報科教員免許（高校1種）が取得できます（社会政策科学科を除く）。

メディア制作プログラム

メディア/ネットワーク社会の理論的認識を深め、ビデオや文章などメディア表現の技法を習得します。また、作品制作を行ったり、マス・メディアのテクスト分析を行い、メディアへの批判力と表現力を養成します。

Advanced English Program

リーディング、ライティング、スピーチ、ディベートなど少人数科目の集中学習を通じて、英語の高度な運用能力を高めていきます。

諸外国語中級プログラム

講読、文法、表現・コミュニケーション、作文などの学習を通してドイツ語、フランス語、中国語それぞれの運用能力を高めます。

HISTORY

時代とともに歩む

60年の歴史

時代の変化や学生の多様な興味に即した「効果的なカリキュラム構成」。
質の高い研究実績を挙げている教授陣。これらは社会学部のパイオニアである本学ならではの、
60余年の歴史が培った充実の教育体制です。

1958年～1970年頃の法政大学市ケ谷校舎全景

1984年9月20日、
社会学部棟

1880年
（明治13年）
東京法学社設立

1881年（明治14年）
東京法学社講法局が
独立して
東京法学校と名乗る

1886年（明治19年）
東京仏学校設立

1889年（明治22年）
東京法学校と東京仏学校とが
合併して和仏法律学校と改称

1903年（明治36年）
和仏法律学校法政大学と改称

1920年（大正9年）
大学令により法政大学となり、
法学部と経済学部を設置

1952年（昭和27年）
社会学部を当時の
麻布校舎に設置

1955年（昭和30年）
社会学部、
市ケ谷キャンパスに移転

1957年（昭和32年）
応用経済学科を設置
（1学部1学科）

1960年（昭和35年）
社会学科を設置
（1学部2学科）

1984年（昭和59年）
社会学部、多摩
キャンパスへ 移転開始
（1988年に移転完了）

1996年（平成8年）
応用経済学科を
社会政策科学科に
名称変更

2002年（平成14年）
メディア社会学科を
設置（1学部3学科）

2006年（平成18年）
7コース・
8プログラム 制導入

2012年
（平成24年）
社会学部
創設60周年

1982年11月17日年、地鎮祭

麻布校舎

1983年10月31日、多摩校舎建設中

1984年4月5日、掲示板前学生（写真左）と学食（写真右）

IDIOM

教授陣と学生がつくる

特色ある学び

少人数教育のゼミをコアとし、フィールドワークや研究成果の発表を通じて学問を探究していきます。
社会生活の現場を知り、学習・研究を行うことにより、問題意識を持って
能動的に社会と関わる力、コミュニケーション能力、発信する力を身に付けます。

IDIOM 01

フィールドワークの多面的な展開

本学部では、ゼミや実習でのフィールド学習を重視しています。社会科学の研究を進めるためには、まず何よりも現場において社会生活の現実を知ることが必要です。現場（フィールド）での学習・研究活動が、私たちの「問題意識」を触発し、「コミュニケーション能力」と「チームワーク」を鍛え、「学問的探求心」を高めてくれます。フィールドワークには、①国内・国外のフィールドに出かけて、その現状を観察すること、②その現場での社会活動に実際に参加してみること、③データを収集・分析し、研究リポート・論文を作成すること、④これらの活動を通じて得られた情報や成果を報告書やメディアコンテンツとして作品化し、外部に向けて提言・表現すること、などの多様な局面があります。本学部では、さまざまなフィールドワークへの参加を通じて、本物の「学問的充実感」を得ることができます。

IDIOM 02

ゼミをコアにしたアカデミック・コミュニティ

一つの学部や学科がアカデミック・コミュニティと言えるためには、「学問的成長の共有」「豊かな人格的交流の存在」「一人ひとりの能動的な関与」という3つの条件が必要です。本学部では社会学部棟の専用教室で全学年に多数のゼミ（基礎演習、専門演習）が開講され、高い履修率を誇ります。少人数教育のゼミが、アカデミック・コミュニティのコアになっています。

IDIOM 03

「学部研究発表会」の開催

ゼミ同士の交流を深めるのと同時に、2年次はじめの専門ゼミ選択の情報を提供するために、毎年11月下旬～12月上旬に「学部研究発表会」を開催。発表会では、各ゼミのプレゼンテーションと教員も加わっての討論会を実施。交流会では教員と学生が情報交換をはかります。12月のゼミ紹介Weeksでは、1年生が各ゼミを訪問し、より詳しいゼミ情報を収集します。

IDIOM 04

多様なメディアの制作活動

研究の成果を作品として、メディアを通じて外部に発信していくことも、本学部における活動の重要な柱の一つです。研究発表会での報告書の作成、論文の執筆はもちろんのこと、映像作品やデジタルメディアコンテンツの制作、討論会・講演会の企画・実施など、社会学部にはさまざまな「創作活動」の機会があります。その活動を通じて、仲間たちと協力しあいながら、「伝える力」を高めていくことができます。

IDIOM 05

充実の外国語教育

外国語教育も重視し、特に英語、ドイツ語、フランス語、中国語については高度の選択的学習機会を提供しています。必修科目に加えて中・上級科目を選択すれば、最大各38単位まで卒業必要単位として認定されます。また、アメリカ（ボストン大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校）、カナダ（トロント大学）、中国（北京師範大学）へ半年間（半期）、カナダ（アルバータ大学）へ1年間（通年）の留学制度（スタディ・アブロードプログラム）を設置。より多くの学生を海外へ送り出すために、希望者が増えれば定員も増員する方針で、奨学金も用意しています。

社会政策科学科

DEPARTMENT of POLICY SCIENCE on SOCIETY

総合的な視野と市民の視点で社会政策を構想し提案できる人材を育成

社会政策科学科では、経済学、経営学、財政学、行政学、
法律学、政治学、社会学など、社会諸科学の知識を応用し、
現代のさまざまな社会問題を分析・解決するための
政策づくりを市民の視点で担える人材の育成をめざします。
産業、環境、コミュニティの領域を中心に、政策の実態を
具体的に学び、より生活しやすい社会をつくるために、
理論だけではなく、社会問題の現場での実習も重視しています。
これにより、行政から企業、NGO、シンクタンクなどの分野で、
政策提言ができる力を身に付けます。

対象コース

・環境政策コース

さまざまな環境問題の発生メカニズムや、人や社会に与える影響を把握した上で、問題を解決するためにはどのような政策や企業経営、市民運動が必要かを学際的に研究します。

・企業と社会コース

企業経営の諸問題、地域産業の復興、雇用形態や働く人々の変化など多様な問題を扱い、現代の企業社会における問題に対する理解力と対応力を学びます。

・コミュニティ・デザインコース

地域社会で起こるさまざまな問題を、コミュニティ形成の視点から考察。行政の改善、住民参加と協力、社会ネットワークの充実など、地域活性化の道を探究します。

・国際社会コース（3学科共通）

国際社会、国際政治、民族問題など、グローバル化が進む現代社会におけるさまざまなテーマを、3学科横断的に研究します。

PICK UP 授業

マクロ経済学から国の社会的課題である貧富の差をモデル化し客観視する

マクロ経済学／北浦康嗣 准教授

マクロ経済学は、経済学の中でも国を対象とした経済成長や失業などを扱う学問です。経済学の分析は「モデル」を多用します。モデルを用いることは、客観的に物事を考え、解き明かすのに役立ちます。現在、少子高齢化社会によってさまざまな問題が起こっていますが、世代を超えた対立を、どのような立場で考えるのが多くの人々にとって望ましいのかなど、経済学の考え方を用いることで視野が広がります。世界に広がる豊かな国と、そうでない国の間に生じる違いは何か、どのようにして違いが生まれるのか、どうすれば解消されるのか、社会を俯瞰するときには、経済学の視座が必ず役立つと思います。社会の課題解決のために、モデルを使って社会を捉え直す視点は、マクロ経済学を履修することで身に付くと思います。数学を使いますし、なかなか難しい学問かもしれませんが、一度、じっくり取り組んで欲しいと考えています。

様々な社会の分割に焦点を当てた「新しい」社会政策の議論

外書講読（英語）／堅田香緒里 准教授

外書講読（英語）では、批判的社会政策論（Critical Social Policy）と呼ばれる、イギリスで生まれた相対的に新しい議論に関する基本的テキストを精読しています。かつて「批判的である」といえば社会階級に焦点化するマルクス主義的視座を意味していましたが、批判的社会政策論は、階級以外の社会的な分割―たとえばジェンダーや「人種」、障害やセクシュアリティ等―を分析の焦点に含んでいるところに大きな特徴があります。本授業では、社会政策をめぐるこうした新しい議論に触れることで、“critical”な視座を身に付けてもらえればと思っています。もちろん、外書講読ですので英文読解の能力や英語圏における社会政策の基本的知識を養うこともできます。社会は、一枚岩ではありません。階級やジェンダー、「人種」といった無数の分割をはらむものです。批判的社会政策論の議論は、そうした社会への理解を促し、一枚岩ではない雑多な生を保障する社会や社会政策を構想するための一助になるでしょう。

社会政策科学科2年
田口修弘 さん

STUDENT'S VOICE

政治、経済、法律を網羅し、福祉から法律まで複合的に学べる学科

私は政治、経済、法律という学問に興味があり、迷っているときに社会政策科学科を見つけ、もともと関心があった労働問題や地域問題も社会問題解決を考察しながら研究できることを知って受験しました。大学では福祉から法律まで複合的に学べます。基礎力をつけた後に始まるゼミでは、まちづくりを大きなテーマにしている樋口ゼミに入りました。立川市に事業所を置くNPOとまちづくり会社の事例を中心に、それぞれの組織で活動する方々を大学に招いてインタビューを行いました。今後もインタビューを通して得られた詳細なデータを記録・分析することで研究を深めていきたいと思っています。JTB協働のもとで開催されたコンテストイベントにもサークルとして参加し、「さがまちカレッジ相模原市藤野エリア魅力発見コンテストJTB賞」を受賞することができました。今、興味があることは、ピンポイントですが、空き家問題です。人々が幸せに暮らしていける環境づくりを考えていきたいと思っています。

社会政策科学科4年
湯澤茉以 さん

STUDENT'S VOICE

圧倒されるデータから見えてきた福島の復興と補償問題を研究

高校2年生の頃までは芸術に興味があったのですが、福島の復興と活性化を行いたいと考えていたとき、高校の先生から法政大学を薦められ初めて社会学という学問を知りました。福島の問題を根本から解明し、その上で町の文化財を活用できるような政策を実施するべきだと気付き、社会政策科学科を受験しました。社会に多角的にアプローチができる想像以上に面白い学問です。現在は「福島県相双地区の支援と賠償の仕組みを生じさせる地域間の格差と不平等の意識」という研究テーマに取り組んでいます。3年生のときにひとりで福島のヒアリング調査を実施し、その結果をもとに今は復興支援の義援金の付与や賠償・補償のシステムに着目して調査を行っています。コミュニティが分断、崩壊されている状態が、まざまざとデータに表されています。分析は適切な方法論で実施したいと考えています。キャンパスには同じ問題意識をもった学生がたくさんいるので楽しく学ぶことができます。

主な進路

住友林業（株）／ TOTO（株）／日本電気（株）（NEC）／武田薬品工業（株）
ヱスビー食品（株）／積水化学工業（株）／（株）三越伊勢丹／（株）京急百貨店
（株）みずほ銀行／（株）三菱東京UFJ銀行／損害保険ジャパン日本興亜（株）
SMBC日興証券（株）／野村證券（株）／東日本旅客鉄道（株）（JR東日本）
日本通運（株）／（株）博報堂／東映（株）／日本放送協会（NHK）
（株）アミューズ／ソフトバンク（株）／日本赤十字社／（学）法政大学
吉本興業（株）／（株）ジェイティービービジネストラベルソリューションズ
日本郵便（株）（日本郵政グループ）／オリックス（株）／内閣府／防衛省
神奈川県庁／横浜市役所／世田谷区役所／法政大学大学院

※過去3ケ年の実績

取得できる資格

社会調査士
中学校教諭一種（社会）
高等学校教諭一種（地理歴史／公民）
図書館司書
学校図書館司書教諭
社会教育主事
博物館学芸員

社会学科

DEPARTMENT of SOCIOLOGY

社会学の主要理論をベースに現代社会の実態を捉える知識・方法論を習得

社会学科では、社会学の主要理論をベースに、
心理学や教育学などの人文科学からのアプローチも動員しながら、
人間や文化、コミュニティ、地域研究、国際といった、
さまざまな対象を多角的に分析します。
現代社会のあり方を問い直し、常に変化し続ける社会現象の
実態を捉えるための知識や方法論を学びます。
同時に、「社会調査実習」などのフィールド学習により、主体的に
社会の現場に出て社会生活の現実を知ることで分析能力を磨きます。

対象コース

・コミュニティ・デザインコース

地域社会で起こるさまざまな問題を、コミュニティ形成の視点から考察。行政の改善、住民参加と協力、社会ネットワークの充実など、地域活性化の道を探究します。

・人間・社会コース

現代社会における人の生き方や生活を、家族、ジェンダー、教育、社会思想などの主題に即して、社会科学・人文科学の諸分野から総合的に研究します。

・メディア社会コース

互いに影響し合うメディアと社会について、多角的に分析。メディアの果たす役割と問題を考え、社会にとって望ましいメディアシステムを構築する能力を養います。

・国際社会コース（3学科共通）

国際社会、国際政治、民族問題など、グローバル化が進む現代社会におけるさまざまなテーマを、3学科横断的に研究します。

PICK UP 授業

変容していく国家の歴史的変遷と課題解決手段としての在り方

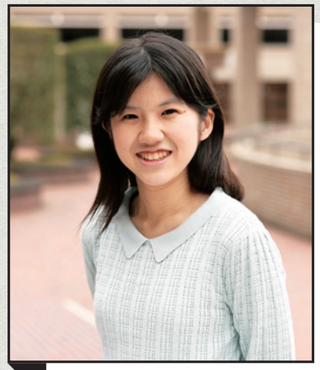
社会学理論B ／佐藤成基 教授

社会学理論Bでは「国家」という枠組みについて、国家とは、そもそもどういうものなのかを扱います。歴史的な流れに沿って、軍隊と官僚機構を備えた近代国家が発生した18世紀までを前期に、後期では19世紀以降の「国民国家」や「福祉国家」となっていく過程と、世界各地へと波及していく過程について、最後にグローバル化の中で国家がどのように変容していくのかを説明します。前後期を通じて社会学者たちのこれまでの研究を紹介しながら話を進めます。実際に日々を過ごしている私たちの社会生活はさまざまなルールや仕組み、法律やインフラで成り立っているにも関わらず、そのような社会制度を実感することはあまりありません。そういった「社会の自明性」に疑問を持ち、より発展的に考察するために、自省的・自覚的に考える能力を身に付けることをめざしています。授業では、国家は様々な社会の「課題解決」の有効な手段になりうるのかどうかについても考えて欲しいと思います。

一般的に捉えられている姿に疑問をもち、自分なりに知らない世界に取り組む

臨床社会学／三井さよ 教授

臨床社会学では、「障害」に焦点を当て、これを「障害者」に属するものではなく、周囲の他者や社会とのあいだにあるものとして捉えかえすよう教授します。そこから自分と社会を別様にみる力を育み、異なる視点から自分や周囲を客観視できるようになることをめざしています。具体的な講義内容としては、まず日本における障害者運動の経緯・内容と、障害の社会モデルなど障害学の知見を示します。また、「障害」に着目したとき、社会のありようが違った様相を呈してくることを示します（たとえば学校教育や労働、生命倫理、芸術、性愛、犯罪と刑罰など）。一般的にあまり話題にされない、あるいは妙に歪められた形でしか取り上げられない事柄は数多くありますが、それらに障害あるいは障害者という視点から光を当ててみると、大きく異なって見えてきます。学生たちには、その違いを理解することで、今後もさまざまな社会問題を自ら発見し、正確な把握ができるよう、自分の頭で考える力を育んでほしいと考えています。



社会学科1年
神澤志織 さん

STUDENT'S VOICE

文化や事件の裏にある社会的背景の関連への気付きから歴史社会学に興味を

大学受験のときには歴史に興味があったのですが、その中でも、ある文化がどのようにして生まれたのか、また事件はこのような社会背景の上に生じた、といったマクロな歴史に興味を持つようになりました。法政大学には、様々なアプローチで学べることと歴史社会学を専攻する先生がいます。まだ1年生ですが、地域の小学校の放課後活動や課外活動に参加し、一緒に遊びながら積極的なコミュニケーションを図っています。他にも、団地のミーティングやイベントに参加して、地域の人たちと交流してまちづくりについて考えたり、「たまち日和」というワークショップの運営を試行錯誤しながら、地域の人と話し合うのに何が最良かを考えたり、と学ぶことが多く充実しています。大学では基礎演習の友人やサークル仲間と話すことが楽しく、地域活動で子どもから大人まで交流できることは幸せです。2年生から始まるゼミにも積極的に参加し、自分の興味を深めていきたいです。

社会学科4年
興梠紗和 さん

STUDENT'S VOICE

「情報を必要とする全ての人に届けられる情報社会」の実現をめざす

私が本学を選ぶにあたってキーとなったのは、社会とメディアを学べることでした。大学案内にあった「社会とメディアを多角的に分析」という言葉に、受験を決めました。入学してからは興味があったプログラミングに授業で取り組みました。そのおかげで、藤代ゼミではNTTとの共同研究を任せてもらうことができ、「技術」が社会やメディアの世界と関わり合っていくのを実感できました。2015年には「データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム」で学生プレゼンテーション賞と優秀インタラクティブ賞を受賞することができ驚きました。インターネットやSNSにより誰でも情報を手に入れ発信できるようになりましたが、本当に必要な情報が届かないこともあります。近所で火事があっても、情報はあっても検索しないと届かないのでは意味がないと思っています。全ての人にとって、その人に重要な情報が間違いなく、落とすことなく、届けられるような社会をつくりたいです。

主な進路

東京セキスイハイム（株）／サッポロビール（株）／東京トヨタ自動車（株）
（株）東急百貨店／生活（協）コープみらい／日本生命保険（相）／SMBC日興証券（株）
（株）三菱東京UFJ銀行／（株）三井住友銀行／大和証券（株）
東日本旅客鉄道（株）（JR東日本）／（株）TBSテレビ／（株）時事通信社
KDDI（株）／ソフトバンク（株）／（株）NTTドコモ／（学）法政大学
日本郵便（株）（日本郵政グループ）／全日本空輸（株）／（株）JTB首都圏
厚生労働省／警視庁／東京消防庁／東京都庁／横浜市役所／法政大学大学院
一橋大学大学院

※過去3ケ年の実績

取得できる資格

社会調査士
中学校教諭一種（社会）
高等学校教諭一種（地理歴史／公民／情報）
図書館司書
学校図書館司書教諭
社会教育主事
博物館学芸員

メディア社会学科

DEPARTMENT of MEDIA and COMMUNICATION STUDIES

柔軟な発想と強靭な編集力で社会の課題をメディアで解決する

メディア社会学科の特徴は、研究と実践の高度な融合です。
社会学の理論や研究手法をベースに、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなど、現代社会に大きな影響を及ぼしているメディアを学びます。
あらゆる人やモノがメディアになり、ジャーナリズムや広告、ビジネスモデルが転換点を迎えています。
本学科では、一線で活躍する教員による講義と映像や広告制作、プログラミングなどの実習を用意しています。
情報の受け手ではなく、創造的な発信者として、変化の激しいメディア社会に対応したオルタナティブな価値を提供出来る人材を育成します。

対象コース

・メディア社会コース

互いに影響し合うメディアと社会について、多角的に分析。メディアの果たす役割と問題を考え、社会にとって望ましいメディアシステムを構築する能力を養います。

・メディア文化コース

メディアの中の表現や内容を、現代社会のあり方と関連させながら解読。メディア表現に関わる問題探究能力を養うとともに、独自のメディア表現を創造する力を育みます。

・国際社会コース（3学科共通）

国際社会、国際政治、民族問題など、グローバル化が進む現代社会におけるさまざまなテーマを、3学科横断的に研究します。

PICK UP 授業

価値感の違いを乗り越えて伝わるメッセージをつくる

広告制作実習／青木貞茂 教授

広告制作実習では学生の広告コミュニケーション能力を育成し、基礎的な表現企画を立案・制作できるレベルに到達するように指導しています。本実習では、まず実際の広告テーマを仮想テーマとして選択し、グループでの共同作業によって市場環境分析や競合分析を行い、テーマの問題点と課題を抽出。その上で訴求ターゲットを策定します。次にターゲットに対する生活者インサイトによりメッセージを絞り込み、具体的な広告表現（30秒のテレビCM）を制作します。最後に、それが、いかにすぐれたものかをロジカルなプレゼンテーションで説得します。これらの一連の過程の中で、伝えたいメッセージをきちんと伝達できる説得的かつ効果的なコミュニケーション能力を身に付けることができるのです。本実習で価値観の違いを乗り越えた相互理解の基礎を学び、コミュニケーションによってさまざまな社会の課題を解決できる力を身に付けます。

身近な社会現象を観察し、コンピュータで改善案を策定

ソーシャル・シミュレーション／諸上茂光 准教授

ソーシャル・シミュレーションは、さまざまな「社会的な現象」をどのようにコンピュータの中でモデル化し、計算機シミュレーションを行えば良いかを習得する実習です。身近な社会現象を観察し、そこから観察すべき変数を決めてモデル化し、数値シミュレーションを模索する、という一連の過程を経て、そのシミュレーション結果から新たな提案を示せるようになることをめざしています。具体的には『噂の伝播の様子と広報のタイミング』『飲食店での効率的な人員配置』『渋滞解消を目指した信号操作』など、コンピュータ内で条件を変えながらシミュレーションし、より良い解を探します。「実際にやってみないとわからない」と考えられることも多い諸問題についてコンピュータ内で再現し、シミュレーションによる試行錯誤により、効果的な改善案を策定できるようになります。失敗に大きなリスクを伴うような、複雑な社会の課題に対して、このアプローチ方法は将来も皆さんの助けになることが期待されます。

メディア社会学科4年
秋山智哉 さん

STUDENT'S VOICE

『不気味の谷現象』の研究を映像制作に生かして賞を獲得

私は金井ゼミで“認知”や“違和感”を踏まえたコンピュータ・グラフィックス（CG）映像において発生する現象について研究しています。それは『不気味の谷現象』と呼ばれるもので、ロボットやCGにおいて、見た目が人間の姿に似てくると、ある一点で急に不気味さが生じてしまう現象のことを指します。実際に自分で『不気味の谷現象』が生じているCGと生じていないCGを制作し、それらの分析や調査を通して、得られた成果を自身の映像制作に役立て、2013年から2015年まで毎年映像やCGのコンテスト等で受賞してきました。当初はマスコミ業界、特に新聞記者を志望していたのですが、入学以降に受けた情報学・映像・プログラミングの授業に触発されて、何かを作るというほうが面白いと感じるようになりました。多摩キャンパスには、のびのびと学び、遊べるという雰囲気があります。色々な人がいるからこそ大学は面白いのです。広い興味を持って本学科を志せるといいと思います。

メディア社会学科4年
穂坂洋美 さん

STUDENT'S VOICE

データから戦略を練り、広告でアプローチできる可能性を研究

私は諸上ゼミで、広告が医薬品の購買意欲に与える効果について研究しています。国民医療費増大が社会的問題となっている中で、医薬品に着目し、医師の処方箋が必要なものではなく薬局で消費者の購入が増えれば医療費が抑えられるのではないかと考えました。仮説をもとに仮想広告を作成し、アンケート調査から広告でアプローチできる可能性について研究しています。「消費者が症状別に知覚するリスクの特性に対応したOTC医薬品広告の考察」という研究発表を日本経営システム学会で行い、学生研究発表優秀賞を受賞することができました。本学科では、座学での知識の習得はもちろん実習系の授業も充実しているので、より実践的に学べる環境があるのはうれしいです。広いキャンパスに膨大な資料がある図書館と、ときにのんびりと学べる環境は魅力的です。将来的には、たくさんの人の幸せをつくりあげる広告戦略をし、「いいな」と思ってもらえるメディアコンテンツもつくりたいと思います。

主な進路

旭化成ホームズ（株）／（株）バンダイ／大日本印刷（株）／三菱電機（株）
（株）セブン-イレブン・ジャパン／三井住友海上火災保険（株）
（株）三井住友銀行／日本航空（株）／東日本旅客鉄道（株）（JR東日本）
野村不動産（株）／日本放送協会（NHK）／（株）テレビ朝日
（株）産業経済新聞社／（株）ホリプロ／（株）テレビ東京制作／（株）進研アド
ソフトバンク（株）／（株）エヌ・ティ・ティ・データ／（株）エイチ・アイ・エス／東京都庁
長野県庁／新宿区役所／八王子市役所／法政大学大学院／早稲田大学大学院

※過去3ケ年の実績

取得できる資格

社会調査士
中学校教諭一種（社会）
高等学校教諭一種（地理歴史／公民／情報）
図書館司書
学校図書館司書教諭
社会教育主事
博物館学芸員

教員紹介

多彩なキャリアを持つ教員が、学生の興味・関心と柔軟な感性に応えるべく、学びをサポートします。

❶専攻　❷ゼミナールまたは教育・研究テーマ

社会政策科学科

糸久 正人 准教授

❶ イノベーション・マネジメント
❷ 標準化戦略、オープン・クローズ戦略、ものづくり戦略

多様な価値観、複雑化する技術を背景に、どのような社会をつくるべきか？ 社会的視点から企業のイノベーション活動について考えます。

岡野内 正 教授

❶ 批判的社会理論、国際政治経済学、開発論、中東研究など
❷ 歴史的正義回復とグローバル・ベーシック・インカムの理論

あなたも、人類全員も、生きる歓びを感じられる世の中のしくみをつくる。そのために何ができるか。先人の苦闘に学び、議論していきます。

堅田 香緒里 准教授

❶ 社会政策、福祉社会学、ジェンダー論
❷ 批判的社会政策論、貧困・ジェンダーをめぐる諸問題の分析および対策

仲間と一緒に知的興奮を味わいながら、新しい制度や社会を構想する力を養いましょう。

加藤 寛之 准教授

❶ 地域産業論
❷ 産業の国際分業・国際移転のリアルに迫る

様々な産業を実際に調査することを通じて、産業を視る眼を養います。

上林 千恵子 教授

❶ 産業社会学
❷ 日本の外国人労働者問題と移民政策

女性、外国人労働者、高齢者など社会的弱者の仕事と雇用について考えます。労働の未来を拓く一助になればと思います。

北浦 康嗣 准教授

❶ 理論経済学、公共経済学
❷ 税、公共支出など政策効果の研究

日常生活の中にあるさまざまな疑問について「経済的な考え方だと、どのように解釈することができるだろうか」をみなさんと一緒に考えます。

高 美賀 准教授

❶ 映画研究
❷ 映画・文化理論研究、映画・メディアにおける表象分析

映画を楽しみながら、尚且つ批判的・理論的・歴史的視点から考えてみませんか。映画はその時代の社会と密接につながっています。

島本 美保子 教授

❶ 環境経済学、森林問題
❷ 世界の食料問題

発展途上国の食料難に限らず、日本の食料自給率の低さ、食料輸出国が抱える問題など、ニュースで伝えられない食料問題の実像に迫ります。

ジョージ・ハン 専任講師

❶ English Education（英語教育）
❷ Drama in English Education（ドラマ・演劇を取り入れた英語教育）

Don't just sit there with a boring English textbook! Engaging your mind, your heart and your body, let's use DRAMA to make English learning meaningful and fun!

白鳥 浩 教授

❶ 政治学理論
❷ 現代政治分析（市民・選挙・政党・国家）

世界に羽ばたく国際人、地方を背負って立つまちおこしの主体となる地域リーダーの養成をはかっています。

関口 浩 教授

❶ 財政学、地方財政論、租税論
❷ 財政学演習（地方分権時代における税財政システムおよび教育・福祉政策の研究）

税金や社会保障費など、生きていく以上人間生活に密接に関わる財政についての学問です。より良い時代を創るための知識を身に付けましょう。

田口 博雄 教授

❶ 経済政策論、金融・国際金融論
❷ 最近の経済政策や企業行動についての調査

個人・企業・政府などが国内および海外で行うさまざまな経済活動について、理論・現実の両面から理解を深めていくことを目的としています。

田中 充 教授

❶ 環境政策論
❷ 環境問題の課題と解決

人類が直面する21世紀最大の社会問題の一つである環境問題について、解決策を考えていきます。

中筋 直哉 教授

❶ 地域社会学
❷ コミュニティの心情と論理

時代とともに変化していくコミュニティの成り立ちについて、調べ、考え、議論していきます。

長沼 建一郎 教授

❶ 社会保障法・社会保障論・保険論
❷ 社会保障および生命倫理をめぐる諸問題。介護事故、公的年金と私的年金、保険と契約の結節

社会保障および生命倫理の領域を中心に、参加者が興味のあるテーマを取り上げて、報告と討議をメインに進めていきます。

長谷部 俊治 教授

❶ 行政法、国土・都市・地域政策、環境と開発
❷ 都市という現象の総合的な解明

都市活動の諸問題（土地利用、都市環境、都市交通、都市住居、都市経済、都市経営、都市文化など）に取り組んでいきます。

間島 正秀 教授

❶ 行政学、地方自治、政策過程論
❷ 地方自治、公共政策、現代行政分析

地方自治や公共問題に対する多面的かつ批判的な見方を醸成し、具体的な政策づくり、制度づくりにつなげていきます。

増田 正人 教授

❶ 国際経済・国際金融論
❷ グローバリゼーションを考える

グローバル社会の中で、日本社会はどうあるべきなのか、各国の歴史、社会に関する事実をきちんと学び、未来を一緒に考えていきます。

鞠子 茂 教授

❶ 生態系生態学、植物生態学、環境科学
❷ eco検定受験、低炭素社会に寄与する生態系炭素隔離技術、外来植物の侵入と定着

人間とは何なのか、人間が築いた文化・科学・社会とは何なのか、ヒトという生物を育む自然環境への理解を深めつつ考察します。

社会学科

荒井 容子 教授

❶ 社会教育学
❷ 社会教育実践研究、社会教育法制度研究、成人教育・社会教育運動研究、公民館研究

「学び」そのもののあり方について研究します。社会教育、成人教育をめぐる政策や社会運動についても考えていきます。

池田 寛二 教授

❶ 環境社会学、リスク社会の理論、アジア研究
❷ 環境問題など現代社会の諸問題を、社会がリスクを生産するプロセスとして研究

環境やエネルギーなどグローバルな問題から身近なゴミ問題に至るまで、多岐に渡る研究を行っています。

金原 瑞人 教授

❶ 英語圏のエスニック文化
❷ 創作（クリエイティヴライティング）。小説や詩の創作を通じて、表現力の向上を図る

小説やエッセイや詩歌を書いてみたい方にお勧めです。ゼミ生同士批評し合い、作品の質を高めていきます。

菊澤 佐江子 准教授

❶ 家族社会学
❷ 家族とウェルビーイングに関する社会学的研究

時代と共に変化していく「家族」について社会学的視点から考察していきます。

斎藤 友里子 教授

❶ 理論社会学・数理社会学・社会意識論
❷ 公共性の社会学：「秩序」の成り立ちについて考える

格差問題や被災地支援、表現の自由などの大きなことから、公共の場でのマナーなど小さなことまで「公平さ」と「公共性」という角度から考えます。

佐藤 成基 教授

❶ 比較ナショナリズム研究、歴史社会学、社会学理論
❷ ナショナリズムとグローバル化

国家やナショナリズムについて、歴史をたどり、相互に比較しながらグローバルな視点で考察していきます。

佐藤 修一 専任講師

❶ 英語学、英文学
❷ 英語史、中世からルネサンスにかけての英語・英文学 ビート・ジェネレイションの作家・作品

英語・英文学について歴史的・文化的文脈に照らしつつ考察しています。

澤柿 教伸 准教授

❶ 自然地理学・第四紀学
❷ 自然環境変遷の解明と、その保全および適応

自然環境が変遷してきた過程を解明し、環境の保全や環境変動への適応について考えます。

愼 蒼宇 准教授

❶ 朝鮮近代史・植民地研究
❷ 歴史と現代社会

歴史の理論的考察を行い、歴史学の手法を用いて現代社会の諸問題を解決する方法を探るゼミです。

鈴木 智道 准教授

❶ 歴史社会学、教育社会学
❷〈日常生活〉の社会学

日常生活のなかにある「何気ないこと」に注目し、それを社会学的に問題化していきます。ゼミ生自ら多彩なテーマに取り組んでいます。

鈴木 智之 教授

❶ 社会学理論、文化社会学
❷ 物語言説の社会学的分析。特に自己と他者をめぐる語りとその社会的条件の研究

「自己の経験を語る」「他者の語りを聴く」「他者の語りを伝える」などの実践を通じて、他者を理解することの可能性を探究していきます。

鈴木 麻美 教授

❶ 数学（函数論、関数方程式）
❷ 社会が必要とする「数学的思考力」を考える

数学とは高次元の思考や抽象的な事柄の理解とも言えます。社会活動で“強力な武器”となる数学を通し、論理的思考法や文章力を高めます。

髙橋 愛 准教授

❶ フランス文学
❷ フランス自然主義文学と視覚芸術の関係

文学と美術の関係を中心に、小説描写や造形芸術にみられる特徴が、いかなる時代背景や人々の想像力と結びついているのかを考察しています。

多喜 弘文 准教授

❶ 社会階層論、教育社会学、比較社会学
❷ 教育・労働に関する不平等問題の計量社会学

教育や労働に関する格差問題について、計量的な分析手法を用いてデータを検証しつつ、想像力を働かせて社会学的に議論します。

田嶋 淳子 教授

❶ 国際社会学、移民・エスニシティ研究
❷ 東アジアにおけるグローバル化と日本社会の変容を移住の視点から研究

国際移住に関して社会学的見地から考察し、文献と実態調査を同時に学びます。アポイントからインタビュー、分析、執筆まで一連の調査経験もできます。

徳安 彰 教授

❶ 社会システム論
❷ 社会現象を人間と社会システムの2つの視点から見る

身近で起こる社会現象を、社会学の目で読み解いていきます。一人ひとりのテーマへのこだわりを大切に、現象を掘り下げていきましょう。

濱中 春 教授

❶ ドイツ文学、表象文化論
❷ 風景をめぐる文化と表象

風景の表現、風景をめぐる人間の行動などを対象に、風景や場所の持つ文化的な意味と、言葉や映像による表現のさまざまな可能性を探ります。

樋口 明彦 教授

❶ コミュニティ政策論
❷ 社会的排除／社会的包摂、若者論、NPO／NGO、働き方の多様化

地域の付き合い・人間関係が希薄になっている現在、コミュニティの活性化について討論していきます。

平塚 眞樹 教授

❶ 教育学、人間形成とりわけ若年移行期研究
❷〈おとなになる〉ということ ～現代社会とひとの育ち・自立・教育～

人の育ち、学び、教育などを通して、日本や他国の社会について探究していきます。

二村 まどか 准教授

❶ 国際関係論、国際安全保障、国際人権
❷ 国際社会における国連の役割、国際刑事裁判

ますます複雑化する国際社会が抱えるさまざまな問題をどのように理解するのか、国連の働きを通して考えていきます。

堀川 三郎 教授

❶ 環境社会学、都市社会学
❷ 歴史的環境保存、まちづくり、住民運動・公害被害地の追跡調査

具体的な社会問題を研究する過程を通して、社会を見る「方法」を学びます。“Say it with data.”（データをもって語ろう）をモットーに、実証的な研究を！

水野 節夫 教授

❶ 質的分析論、生活史研究
❷ 社会と人間の心理を探る

社会と人間という広いテーマの中で、個人課題とゼミ共通課題を設定することにより、「個人」と「人間集団」を実感しながら学びます。

三井 さよ 教授

❶ 臨床社会学、ケア・支援論
❷ 医療・福祉をめぐる社会問題への相互行為論的アプローチ

障害や病い、被災、被害などを、個人に属するものというより、人と人とのあいだで起きる社会的な事柄として捉えかえし、必要な支援や援助、ケアについて考えていきます。

矢部 恒彦 准教授

❶ 都市景観論
❷ まちづくりを身近な生活環境から考える

街なみ、建物、緑のデザインを手がかりに、身近な空間を再発見します。そして、居心地のよい空間づくりのための調査・研究を進めます。

吉村 真子 教授

❶ アジア研究、東南アジア地域研究
❷ 国際社会の諸問題（とくにアジアにおける社会・経済・政治・文化など）

国際社会における諸問題を、とくにアジアを中心に議論します。アジアに興味のある方は是非参加して下さい。

メディア社会学科

青木 貞茂 教授

❶ 広告学
❷ 高度消費社会における広告プランニング研究

法政大学多摩キャンパスオープン・キャンパスの企画や、外国人に日本の魅力を紹介するCM制作など、実践を通してプランニング能力を身に付けます。

荒木 暢也 教授

❶ 米国ジャーナリズム研究
❷ 米国報道メディア情報にみる日本像

米国が報じる日本のイメージは、我が国のジャーナリズムとは大いに異なります。その違いを分析・考察し、視野を広げていきます。

稲増 龍夫 教授

❶ メディア文化論
❷ ビデオ映像制作を通しての現代メディア文化の実践的理解

企画・撮影・編集という映像コンテンツ制作の全課程を実際に体験することによって、メディアコミュニケーションを理解していきます。

宇野 斉 教授

❶ 組織行動科学、社会ネットワーク論、経営学
❷ 会社や地域等の様々なネットワークや組織の構造、行動、変化を探ります

メディア産業やコンテンツ産業等から、人間、メディア、ネットワーク、社会等への様々な影響をトピック、テーマごとに探求していきます。

大﨑 雄二 教授

❶ 現代中国における国民統合・民族政策
❷ 現代中国（東アジア）地域研究

歴史から学び、現在をまっすぐ見つめ、よりよい未来を構築するための「真の教養」＝生涯の財産を一緒にしっかり身に付けましょう。

金井 明人 教授

❶ 認知科学・人工知能と映像の修辞学
❷ 映像と物語の関係と、その受け手への効果を認知科学の立場から分析する

映像と物語・その受け手への効果を、技法的側面や環境的側面を中心に、違和感や切断にも注目して、認知科学の立場から研究しています。

越部 清美 准教授

❶ 舞踊教育学、体育科教育学
❷ 身体文化について考える／体験する

非言語コミュニケーションについて実践的に探究します。舞台芸術や、演劇・ダンスに深く関わります。

小林 直毅 教授

❶ メディア研究、テレビドキュメンタリー研究
❷ メディア表象としての現代社会を読み解く

メディアを分析することによって、メディア社会をしなやかに生き抜くプロフェッショナルになることを目標としています。

謝 荔 教授

❶ 文化人類学、中国・日本社会の生活文化の比較研究
❷ グローカリゼーションにおける地域文化の創出

【文化人類学】諸民族の生活様式や文化の多様性を理解します。【中国語】会話力を養成し、映像資料を通して若者の価値観、結婚観に触れます。

白田 秀彰 准教授

❶ 情報法・知的財産権法
❷ 情報社会と情報産業の調査研究、プレゼンテーションの技法

企画・調査・整理・報告の技法を学びます。社会人になった時に必ず役立つ技能です。

鈴木 宗徳 教授

❶ 社会学史、理論社会学
❷ 現代における批判的社会理論の課題

社会学の重要文献を読み込んで、社会問題の批判的な捉え方を身に付けます。夏休みは、社会問題の「現場」へ行ってインタビューも行います。

田中 優子 教授

❶ 比較文化、文学、メディア史
❷ 江戸時代の諸文化の研究を通して、現代社会の価値観・メディア・循環社会の問題を考える

現在は総長ですので代講の先生方にお願いしています。世界の中の日本を知るという「国際日本学」は、必ず皆さんの将来に役に立ちます。

津田 正太郎 教授

❶ マス・コミュニケーション論、政治社会学、情報化社会論
❷ 取材活動を通じた実践的メディア理解と分析

社会におけるメディアの役割を研究し、社会学、政治学などの知識を踏まえた上で、現代社会の諸現象に切り込んでいきましょう。

土橋 臣吾 准教授

❶ メディア論、コミュニケーション論
❷ デジタルメディアの実践的研究

デジタルメディアでどんなことが出来たら楽しいか、役に立つか、喜んでもらえるか、企画立案して実際に作品を作ります。

藤代 裕之 准教授

❶ ジャーナリズム論、ソーシャルメディア論
❷ ソーシャルメディア時代のジャーナリズムのあり方を考える／Entrepreneurial Journalism

ソーシャルメディアを対象に研究と実践的な活動を行っています。メディアやジャーナリズムの未来を一緒に切り拓いていきましょう!

藤田 真文 教授

❶ コミュニケーション論、メディア論
❷ マス・メディア（テレビ）のテクスト（内容）分析

ショート・ムービー制作や放送番組の企画などを通して、メディア・テクストの構造を理解し、将来表現者となるための基礎を身に付けます。

諸上 茂光 准教授

❶ 広告科学、脳認知科学
❷ 脳科学に基づいた視点から、消費者心理・消費者行動の分析を行い、効果的なマーケティングや広告手法の提案を行う

効果的な広告とは何か、広告戦略や商品開発といったマーケティング活動における実践的な技術を身に付けることをめざします。

海外留学制度

法政大学は、文部科学省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」および「スーパーグローバル大学創成支援」の採択校として、より一層グローバル化を推進しています。

社会学部スタディ・アブロード（SA）プログラム

社会学部SAプログラムは、外国語（英語、中国語）の集中的な学習によって実用能力を磨き、派遣先での生活経験を通じて異文化理解を深めることを目的とするプログラムです。国際社会でのマナーとルールを身に付けると同時に、そのプロセスを通じて国際人としての素養と自覚を高め、将来国際的に活躍するための力を養うことが期待されます。また、SA派遣先で履修した科目には単位認定制度があります。

対象年次・期間
SA［半期］…… 2年次または3年次秋学期　　長期SA［通年］…… 3年次

派遣先
SA［半期］…… ボストン大学英語教育センター（アメリカ）、カリフォルニア大学サンディエゴ校（アメリカ）、トロント大学生涯学習学校（カナダ）、北京師範大学漢語文化学院（中国）
長期SA［通年］…… アルバータ大学（カナダ）

社会学部単位認定海外短期留学制度

社会学部の学生が夏季もしくは春季の長期休暇を利用して、学部の認定した外国語研修機関への留学プログラムに参加した場合に、外国語科目の中級科目（2単位）として単位認定する制度です。対象語圏はドイツおよびフランスです。

対象年次・期間
1年次の春季休暇期間、2・3年次の夏季・春季休暇期間、4年次の夏季休暇期間

派遣先　学部で認定した外国語研修プログラムのコースリストから選択

法政大学派遣留学制度

2・3年生の応募者の中から選考のうえ、3・4年次に奨学金を支給し、各協定大学に1年間派遣する本学独自の留学制度です。オーストラリア・韓国の大学へは春学期入学、その他の大学は秋学期入学の募集です。奨学金は派遣先大学により70～100万円が支給され、派遣先の授業料は全額免除されます（ただし留学年度の本学の学費は本人負担）。また、留学先の大学で修得した単位は、審議の上、学部により30単位を上限として卒業所要単位として認定されます。

派遣先大学
［アメリカ］トルーマン州立大学／ベイラー大学／UCデイヴィス大学／ボイシー州立大学／サンディエゴ州立大学／ウェストチェスター大学／ガステイバス・アドルファス大学／UWミルウォーキー校／ミネソタ州立大学マンケート校／ウェストフィールド州立大学／ネバダ大学リノ校 **［イギリス］**シェフィールド大学／ブラッドフォード大学／リーズ大学／ニューカッスル大学 **［オーストラリア］**シドニー大学／アデレード大学／ボンド大学 **［大韓民国］**延世大学／ソウル市立大学校／梨花女子大学／徳成女子大学 **［ドイツ］**フンボルト大学 **［オーストリア］**ウィーン大学 **［スイス］**サンクトガレン大学 **［ロシア］**モスクワ国立大学／サンクトペテルブルク国立大学／国立研究大学高等経済学院 **［ウズベキスタン］**タシケント国立東洋学大学 **［フランス］**リヨン第三大学／パリ・ディドロ（パリ第7）大学／西部カトリック大学／ストラスブール大学／ヴェルサイユ大学／エクス・マルセイユ大学 **［イタリア］**カルロ・カッターネオ大学／ヴェネツィア大学 **［スペイン］**バルセロナ大学／ビック大学 **［チェコ］**チェコ工科大学 **［デンマーク］**ロスキレ大学 **［中国］**上海外国語大学／中央民族大学／首都師範大学 **［台湾］**國立中山大学／淡江大学／國立政治大学／元智大学／國立台湾師範大学 **［タイ］**タマサート大学 **［マレーシア］**マラヤ大学 **［メキシコ］**グアダデハラ大学　※ 2016年3月現在

現地研修プログラム

短期語学研修
英語をはじめとした外国語の語学力強化のための2週間から4週間程度の語学研修です。夏季休暇中と春季休暇中に2週間から4週間程度、本学の海外協定校に位置づけされた語学研修施設で学びます。習熟度別にクラス編成がされるなど、初めて海外に行く学生にお勧めの研修制度です。

国際ボランティア
現場に身を置き国際協力に対する理解を深めるためのプログラムです。夏季休暇中と春季休暇中に2週間から4週間程度、国際社会に貢献する活動を外国人とともに行うなど、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を養い、海外に積極的にチャレンジしていく資質を育みます。

国際インターンシップ
国際的なビジネスに対する理解を深めるためのプログラムです。夏季休暇中と春季休暇中に2週間から4週間程度、企業のグローバル化に対応した各国の経済状況や文化を実際に体験しながら、働き方や文化の違いを学びます。将来的には、グローバル企業への就職など学生のキャリア形成支援につなげていきます。

いずれもグローバル教育センターが主催する全学的なプログラムですが、社会学部の場合、プログラム修了後に所定の手続きをすれば、一定の条件のもと卒業所要単位として認定します。

※ 国際ボランティア、国際インターンシップは、すべてのプログラムが単位認定の対象とはならないため、事前に確認が必要です。

キャリア支援

法政大学では、卒業後の将来に向けてきめ細やかな
就職・進路支援を展開し、例年高い就職実績を獲得しています。
学生の自主性を促し、各々の夢の実現を万全の体制でサポートします。

キャリア形成科目

学問の学び方や社会とのかかわり、どんな視点で職業を考えるかといったキャリアをデザインするうえで役立つ科目が開設されています。社会学部ではキャリア支援科目として下記のような科目を推奨しています。

- キャリアデザイン論
- 社会を変えるための実践論
- 職業社会論
- インターンシップA／B／C

教職課程

社会学部では、中学・高等学校の社会科関連教科等の教諭一種免許取得が可能です（下記参照）。毎年およそ30人の学生が教育免許を取得し、さまざまな教育関連職に就いています。教員をめざすためには、まず基礎的な資格として学士の学位を得る（大学を卒業する）ことが前提です。その上で、教育職員免許法に定められている所定の科目、単位を修得し、実際に中学・高等学校の教壇に立って授業を行う教育実習を受ける必要があります。

▼ 取得可能な教員免許状

学科	中学校教諭一種	高等学校教諭一種		
	社会	地理歴史	公民	情報
社会政策科学科	○	○	○	—
社会学科	○	○	○	○
メディア社会学科	○	○	○	○

※上記のほか、図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事（任用資格）、博物館学芸員の資格課程も受講できます。

キャリアセンター

キャリアセンターは単に“就職指導を受けるところ”というイメージが強いかもしれませんが、実は生涯を通してのキャリア形成を考えるためのアドバイスやサポートを受けられる場所でもあります。全学年を対象にきめ細かくサポートできるよう、コンサルティングスタッフ、設備、就職支援プログラム、情報を充実させています。ぜひキャリアセンターを積極的に活用してください。

社会学部生の就職希望者決定率

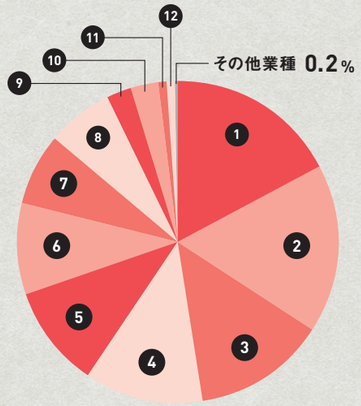
（2016年3月卒業生）

98.9%

※1：就職希望者決定率は、「就職者」「進学者」以外のうち、進学準備・公務員試験準備・留学・アルバイトなどを除いて算出しています。
※2：2016年4月1日調査時点

業種別就職状況 （2016年3月卒業生）

❶ サービス	17.3%	❼ 公務	7.2%
❷ 金融・保険	17.0%	❽ 運輸・不動産・公益	6.7%
❸ 製造	13.4%	❾ 建設	2.7%
❹ 卸・小売	12.0%	❿ 教育	2.7%
❺ マスコミ	10.1%	⓫ 医療・福祉	0.9%
❻ 情報・通信	9.2%	⓬ 大学院等進学	0.7%



主な就職先 （2016年3月卒業生）

- **製造**…TOTO（株）、武田薬品工業（株）、（株）バンダイ、大日本印刷（株）、（株）ニチレイフーズ、サッポロビール（株）、トヨタ自動車（株）
- **卸・小売**…（株）三越伊勢丹、サントリー食品インターナショナル（株）、（株）ビックカメラ、（株）セブン-イレブン・ジャパン、（株）京急百貨店
- **金融・保険**…第一生命保険（株）、（株）みずほ銀行、損害保険ジャパン日本興亜（株）、（株）三菱東京UFJ銀行、SMBC日興証券（株）、（株）三井住友銀行
- **運輸・不動産・公益**…東日本旅客鉄道（株）（JR東日本）、野村不動産（株）、東急リバブル（株）、西武バス（株）、日本通運（株）
- **マスコミ**…日本放送協会（NHK）、（株）テレビ朝日、（株）博報堂、東映（株）、東宝（株）、（株）産業経済新聞社、（株）ホリプロ、（株）アミューズ
- **情報・通信**…（株）NTTドコモ、ソフトバンク（株）、楽天（株）
- **サービス**…吉本興業（株）、オリックス（株）、日本郵便（株）（日本郵政グループ）
- **公務**…内閣府、総務省、国土交通省、防衛省、警視庁、東京都庁、東京消防庁、神奈川県庁、長野県庁、世田谷区役所、中野区役所、町田市役所、横浜市役所
- **大学院等進学**…北海道大学大学院、早稲田大学大学院、学習院大学大学院

卒業生メッセージ

法政大学社会学部の学びを社会で生かしています。

社会学部 メディア社会学科
2012年3月卒業
中村温子 さん

株式会社スタートトゥデイ 勤務 ／ メディア文化コース × メディアリテラシープログラム※

想いを共有する仲間との切磋琢磨は人生において、かけがえのない経験

ファッションコーディネートサイト「WEAR」のポスターと冊子です。とても自由な社風のため、イベントや書籍販売に関わるお仕事も経験させていただきました。

ファッションコーディネートサイト「WEAR」の営業・運用を担当しています。さまざまなブランドにWEARを効果的に使っていただけるよう、ブランドが抱えている悩みや要望を聞きながら、アドバイスをさせていただいています。

入学時に将来のことがわからなかった私にとって、関心のある分野を組み合わせて、自分の進路に合わせたオリジナルのカリキュラムを作れたことは大きかったですね。また、ゼミでは映像制作を行ったのですが、同じ想いを持った仲間と切磋琢磨できたのは貴重な経験でした。仕事を選ぶ上でも、仕事の内容が楽しく、働いている人が生き生きとしているかを重視しました。これからも人生を楽しくする! という軸はぶれさせずに、夢を一つひとつ実現していきたいです。

大学時代にかけがえのない時間を過ごせたかどうかは、その後の人生に大きく影響します。自分の関心があることを学べるかという基準を大切に大学を選んでほしいですね。

※2014年度以降入学者のカリキュラムでは、メディアリテラシープログラムは、メディア制作プログラムに変更となりました。

社会学部 社会政策科学科
2013年3月卒業
雨宮大輔 さん

八王子市役所 勤務 ／ 環境政策コース × 公務員プログラム

複合的な視点で捉え、考える力は、仕事をより意味深いものにします

地方公共団体契約実務ハンドブックや、契約判例、地方財政小辞典などを常に身近に置いて愛用しています。契約にはさまざまケースがありますので、日々勉強です。

八王子市の教育委員会で、学校や図書館などの生涯学習施設において、必要な物品の購入や施設の維持管理に係る委託・工事の契約などを事業者と結ぶ業務を担当しています。市の財源は税金であることから、最小の経費で最大の効果を挙げるための重要な業務を任されています。

社会学部で学んだ「ひとつの事象を複合的な視点で捉えて考えていく力」は、仕事をより意味深いものにし、適正な判断をしていく上で非常に役立っています。今後は、環境問題など大学で専攻したことを生かして、自分がやりたいと思っている環境保全や自然と調和した住みよいまちづくりを行う業務に携わっていきたいです。

法政大学の社会学部は自分にあったスタイルで学ぶことが出来ることが大きな魅力です。この学部に入り、興味があることや気になることを見つけ、積極的に行動し、様々なことに挑戦してみてください! 未来の皆さんにとって貴重な財産となるはずです!

社会学部 メディア社会学科
2014年3月卒業
櫻田惇平 さん

株式会社ホリプロ 勤務 ／ メディア文化コース × メディア社会コース※

ゼミでのドラマ制作の経験がプロの現場でも役に立ちました

「贖罪の奏鳴曲」で使用した台本です。この台本の中に役者さんの台詞、表情、そのシーンの状況などが細かく書かれていて、スタッフ全員がこの台本を基に、ドラマを作っていきます。

テレビドラマのアシスタントプロデューサーの仕事をしています。具体的には、台本の作成、キャスティングの補助、撮影中の役者のケア、各スタッフの連絡の仲介など数えきれないほどの業務を行っています。

学生時代のゼミでは、脚本から撮影、編集まで全て自分たちで行うオリジナルドラマを制作して、番組が成り立つ工程を学びました。「脚本から、使用するロケ地や小道具を考えて、撮影し、映像にする」という作業を経験していたからこそ、プロの現場でも一つひとつ理解して仕事ができました。

また、他の学部に比べてマスコミ志望の学生が多かったので励みになりましたし、先輩や友達から情報を聞くことができたのも良かったと思う点です。

社会学部はどの業界をめざす人にとっても素晴らしい教授や先輩がいて、学ぶ上でとても良い環境が整っています。幅広い視野を持って、専門的に学べるこの社会学部の特徴を生かして大学生活を思いっ切り楽しんで下さい!

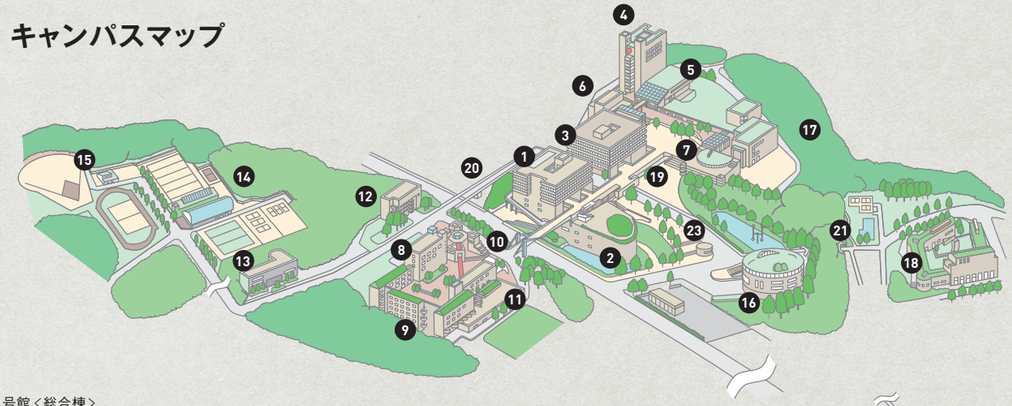
※ 2014年度以降入学者のカリキュラムでは、メディア社会コースとメディア文化コースを主専攻・副専攻で組み合わせて履修することはできません。

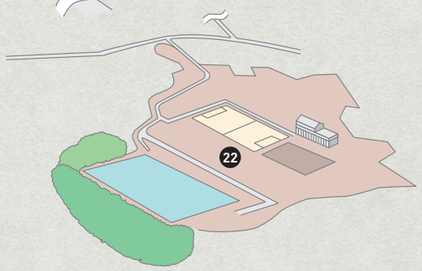
多摩キャンパスガイド

豊かな自然に囲まれた広大で開放的なキャンパス

多摩キャンパスは多摩丘陵の西端に位置し、里山の森を切り開いてつくられました。敷地内には4学部の建物やスポーツ関連施設が置かれ、その周囲を豊かな森が覆っています。多摩校地は東京ドーム20個分ほどの大きさで、学生一人あたりの面積は市ケ谷校地の42倍であり、使える建物面積もほぼ2倍と広いのびやかな環境は、学生の心身に良い影響を与えています。また、豊かな自然は環境教育の実践の場としても活用され、郊外キャンパスならではの教育研究や地域交流が行われています。

キャンパスマップ



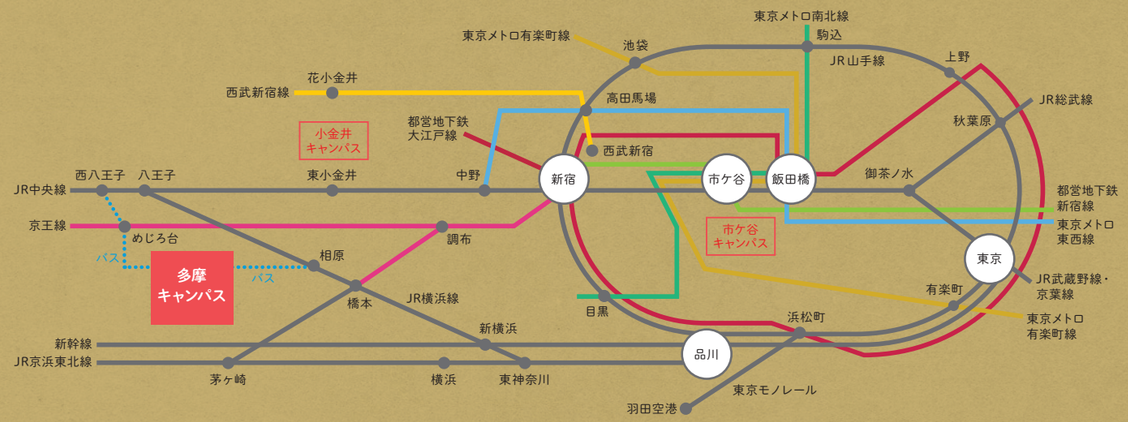


❶ 1号館＜総合棟＞
書籍その他・売店（B1F）
食堂・診療所（1F）
多摩地域交流センター（2F）
❷ 2号館＜大教室A棟＞ Gラウンジ（2F）
❸ 3号館＜図書館・研究所棟＞
❹ 4号館＜社会学部A棟＞
❺ 5号館＜社会学部B棟＞
❻ 6号館＜食堂A棟（社会学部食堂）＞
❼ 7号館＜大教室B棟＞
❽ 8号館＜経済学部A棟＞
❾ 9号館＜経済学部B棟＞
❿ 10号館＜経済学部C棟＞
⓫ 11号館＜食堂B棟＞
⓬ 12号館＜研究・実験棟＞
⓭ 13号館＜百周年記念館＞
⓮ 14号館＜総合体育館＞
⓯ 15号館＜体育棟＞
⓰ 16号館＜多目的共用施設（EGG DOME）＞
カフェ・ラウンジ（2F）、学生センター（2F）
⓱ 17号館＜現代福祉学部棟＞、食堂（1F）
⓲ 18号館、＜スポーツ健康学部棟＞
⓳ ペデストリアンデッキ
⓴ 法政大橋
㉑ 法政トンネル
㉒ 城山校地
（サッカー場、馬場、多目的グラウンド）
㉓ 総合案内所

ACCESS

多摩キャンパス

〒194-0298 東京都町田市相原町4342
京王線：新宿駅から特急で45分（急行で50分）、めじろ台駅下車、バスで約10分
JR中央線：新宿駅から快速で54分（特別快速で42分）、西八王子駅下車、バスで約22分
JR横浜線：新横浜駅から38分、相原駅下車、バスで約13分
※上記各バスで「法政大学」下車



※ 本文中の学生の学年表記は2016年3月時点のものです。

法政大学 社会学部
〒194-0298 東京都町田市相原町4342
TEL: 042-783-2351〜4
URL: http://www.hosei.ac.jp/shakai/